

「放課後まなび教室テーマ別研修会」

7テーマ
参加 329 名

昨年 11 月に、放課後まなび教室アドバイザー・サポーターを対象とした標記研修会を実施しました。

放課後まなび教室はそれぞれの地域の特色に合わせた運営をしていただいております、教室によって力を入れたい取組も違っていることだと思います。この研修会は、そんなまなび教室で日々子どもたちと接しておられるスタッフの皆様が関心のあるテーマを選択して参加できる研修会として、平成 24 年度から実施しています。

今年度も 7 つのテーマについて専門の講師をお招きし、放課後まなび教室の運営に活かせる内容の講演があり延べ 329 人のスタッフに受講していただきました。



今年度の新テーマ「放課後まなび教室作成の教材紹介～使い方や工夫を紹介します～」では、放課後まなび教室コーディネーターが作成した国語と算数のオリジナル教材のねらいや、具体的な活用方法をくわしく紹介しました。その後、参加者にも国語の教材「言葉あつめチャレンジ」の学習プリントにチャレンジしていただき、みなさん時間いっぱい真剣に取り組まれていました。子ども用の教材ではありますが、実際に試すことで、言葉の学習に取り組む子どもたちの気持ちが体感できたのではないかと思います。

また、参加者からは「国語教材の京の通り名のプリントを拡大して教室に掲示している」という教材の活用の工夫を紹介していただいたり、「せっかくの教材だが一律に取り組むことは難しいのでは」という質問には、講師から「それぞれの教室の実態にあわせて、無理のないように取組を進めてほしい」とアドバイスがありました。研修を受けて教材を活用し始めた教室もあるそうで、研修内容を実践していただけて大変ありがたいと感じています。

テーマ別研修会は 50 名程度の少人数で実施していることもあり、どの研修会でも参加者は熱心に講演を聞き、質問も活発にされていました。

今後も放課後まなび教室での活動のヒントにしていただける研修を実施してまいりますので、積極的にご参加ください。また、他のスタッフにも研修会の内容をお話しくださなど、幅広く放課後まなび教室の運営に役立てていただければと思います。

日程	H27 年度テーマ別研修会・テーマ	講 師	参加者
11/4	放課後まなび教室作成の教材紹介	放課後まなび教室コーディネーター 田原邦夫	81 名
11/10	表現の楽しさ、今も昔も	京都文教大学准教授 山本早苗	37 名
11/13	これから大事にしていきたい道徳教育	京都市道徳教育研究会会長(梅津小校長) 若松秀一	33 名
11/16	算数ってこんなに楽しいよ！	京都光華女子大学講師 河原聡子	36 名
11/17	支援を求めている子どもたち	総合育成支援課指導主事 石原廣保	56 名
11/25	子どもと読書	京都市図書館研究会会長(宇多野小校長) 柳田典子	43 名
11/27	子どもを取り巻く環境と課題	生徒指導課主任子ども支援専門官 小松晃子	43 名

このほか、参加者に記入いただいたアンケートの自由記述では、放課後まなび教室について、様々なご質問も頂戴しました。裏面で代表的な項目について Q & A 方式で掲載します。(裏面へつづく)

Q 他の放課後まなび教室では、どのような取組をされているのか、是非知りたい。

A 多くの教室では、児童は、宿題、自習プリント、読書等を中心に自主学習をしています。また、学習後は、児童それぞれが思い思いに、百人一首、カルタ、クイズ、折り紙などの活動や、将棋、オセロ、トランプ等の遊びを楽しむなど、短い時間ながらも、静かに学習してからグループで楽しく遊ぶといったメリハリのある活動をしているところも多くあります。

地域によって特色がありますが、共通しているのは、「どのような放課後まなび教室にしていけばいいのか？」ということのを常に念頭に置き、スタッフどうし、あるいは学校の教職員と真摯に話し合い、きめ細かな工夫を積み重ねていただいている点です。

本誌では、できる限り、そのような工夫を含めて全市の教室の様子を伝えていきたいと考えていますが、例えば近隣の小学校、同じ行政区の小学校など、実際に身近な所を見学して情報交換したりすることも大変有意義なことだと思います。



Q 運営に関して、他の教室でやっている、ちょっとした工夫があれば教えて欲しい。

A 教室の運営にあたっては、地域の特色に応じて、雰囲気づくり、扱う教材、児童への声かけ、スタッフ間・教職員との連携、保護者とのやりとりなど、様々な切り口で工夫されています。

児童に「おかえり」と言って家庭的な雰囲気を出したり、「今日の〇〇君は、低学年に優しく教えてあげていて頼もしかったですよ」等と児童の様子を担当に伝えたりすることも工夫の一つです。

教育委員会では、運営をサポートする17名の放課後まなび教室コーディネーターが、担当している学校を月に1～2回程度巡回していますので、気軽に声をかけてください。

支援の必要な子どもへの対応、活動の充実、保護者・学校との連携など、状況に応じた対応例については、教育委員会生涯学習（放課後まなび教室）のホームページに掲載しています。

<他教室の ちょっとした工夫の例>

- ・ 自学自習の習慣を確立するため、児童ははじめに今日の予定を記入してから課題に取り組み、終盤には予定に対してどこまでできたかを振り返りをして、スタッフのコメントをもらって帰るという「ルール」、「かたち」をつくっている。
- ・ 児童の学習意欲を高めるため、放課後まなび教室用に作成した自習プリント（問題編・解答編）を、あらかじめ人数分ファイルにとして用意し、児童が1枚やりきるごとにシールをはってスタッフが励ましている。
- ・ 児童の個に応じた支援を行うため、スタッフ会議を定例化して児童の様子を学校（教職員）と共有したり、必要に応じて、運営や教材について教職員の助言を得るなど、学校との連携を図っている。 など



編集後記

本誌及びホームページ等で各教室のお取組や実践事例など、たくさんの情報を共有していきたいと思います。ご意見・ご感想など気軽にお寄せください。

発行 京都市教育委員会生涯学習部放課後まなび教室担当

〒604-8064 京都市中京区富小路通六角下ル骨屋之町 549（元生祥小学校）

TEL:254-5015 FAX:254-5020